

ケアマネジメントの展開・演習

内臓の機能不全に関する事例

平成29年度 実務研修8日目／更新・再研修7日目

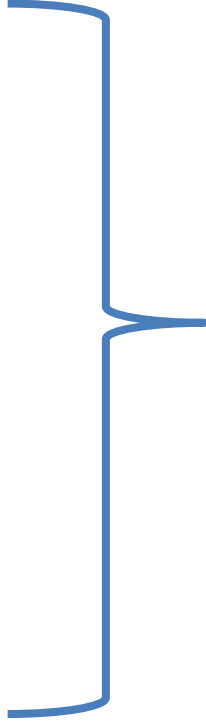
演習

5節 P335

内臓の機能不全等の特性に応じた

ケアマネジメントの具体的方法

- ◆ インテーク
- ◆ アセスメント
- ◆ ケアプラン原案作成
- ◆ サービス担当者会議
- ◆ サービス提供、介入
- ◆ モニタリング
- ◆ 終結・フォローアップ



ケアマネジメント
プロセスの確認

演習

P311

支援にあたってのポイント

- ①生活習慣の改善
- ②服薬状況、食事制限、
運動量などの把握



演習

◆事例

自由に自宅で過ごし、心疾患の悪化を繰り返している利用者(上原絹子さん・84歳)への支援 P311

個人ワーク 15分

◆事例の読み込み

- ・基本情報に関する項目 (P338)
- ・エコマップ 薬剤情報 (P339)
- ・主治医意見書 (P340 P341)
- ・アセスメントに関する項目 (チェックポイントシート) (P342 P343)

演習

上原絹子さんの全体像をまとめましょう

◆ステップⅠ

上原絹子さんの過去～現在まで

「このような生活をしてきた、こんな人・・・」と

文章でまとめてください

個人ワーク ⇒ グループワーク

演習

ステップⅡ

現在の上原さんと家族の状況

今、何が起きていてどのように思っているか？

個人ワーク ⇒ グループワーク

演習

◆ステップⅢ

上原さんと家族が望む生活は？

個人ワーク ⇒ グループワーク

演習

◆ステップⅣ

望む生活の実現を阻害している課題を解決するために、必要な支援は何でしょうか？

(サービス名ではなく支援の内容で考えて下さい。)

個人ワーク

演習

グループワーク

必要な支援の確認

ステップⅣで、それぞれが
必要と思う支援について
グループで意見交換しましょう。

演習

【必要な支援のポイントの一例】

◆心疾患（大動脈弁閉鎖不全症・慢性心不全）
があり症状コントロールが不良である。

⇒ ＊ 定期受診による病状管理、治療の継続

＊ 状態観察と異常の早期発見

＊ 処方内容を守り正しく服薬するための服
薬管理

＊ 塩分、水分制限などを守るための食事管
理と食事支援 など

演習

【必要な支援のポイントの一例】

◆心疾患（大動脈疾患）【見通し】

があり症状コントロール

⇒ ＊ 定期受診

＊ 状態観察

＊ 加齢に伴う
薬管理

＊ 塩分、水分制限などを示すための食事管理
と食事支援 など

定期受診・服薬管理・食事制限を行うことで、症状のコントロールができて、病状が安定する。本人が望む自宅で生活することが継続できる。

演習

【必要な支援のポイントの一例】

◆水分、塩分制限が守れない

⇒ ＊ 家族を交えて食事管理の重要性を説明する。（主治医など医療者から）

＊ 塩分を控えた食事の準備、提供

＊ 定期的な体重測定

＊ 食事制限を意識した買物支援

＊ 水分や塩分を控えることの声かけ、意識付（支援者で統一した方針と対応）

＊ 塩分制限でも美味しく食べられる調理工夫

＊ 治療食の提供ができるサービス など

演習

【必要な支援の

◆水分、塩分

⇒ ＊家族

＊

＊定

＊水分

付（支援者

＊塩分制限でも美味しく食べられる調理工夫

＊治療食の提供ができるサービス など

【見通し】

適切な水分・塩分を守ること
で病状の悪化が予防できる。
その結果、体調が整い生活動
作も安定し、喜んでもらえてい
るブローを続けることができ
意欲の向上も期待できる

知識

対応）

演習

【必要な支援のポイントの一例】

◆生活意欲が低下し、家事も以前のように出来なくなっている（長男：家でゴロゴロしている）

⇒ ＊痛みへの対処（変形性膝関節症）

＊被害妄想や認知症状に対する適切な医療体

＊傾聴と精神的支援により本人のストレスを軽減する

＊友人や近隣との交流を継続できる

＊培ってきた美容師の技術を発揮できる場の提供（ブローをして喜んでもらった）

など

演習

【必要な支援のポイントの一例】

◆生活意欲が低下している

【見通し】

独居の不安や寂しさなどの意欲低下の状況から、できることを少しずつ増やしながら自信を持つことができ、「自宅で夫と老後を過ごしたい」との思いに近づくことができる。。

⇒ * 痛みへ

* 被害

* 傾聴

を軽減

* 培ってきた

の提供（ブローをして言われた）

など

演習

グループワーク 15分

上原さんが「望む生活」を送るために、
生活習慣の見直しが必要と思われます。

【演習15－⑤－3 P355】

上原絹子さんを支援する上で
どのような工夫をすれば
適切な服薬管理ができると考えますか？

意見交換しましょう。

【目標】

薬を間違えずに飲むことができる

- なぜ飲めないのかの把握、置き場所
 - 忘れているのか、
 - みんなで確認、息子、近所電話
 - 他の家族の協力
-
- 服薬時間、方法の相談
 - 本人への説明、意識づけ

服薬管理の工夫の一例

本人と長男に内服治療の必要性を説明し、どのようにすれば服薬できるのか一緒に相談し服薬管理の方法を確認する

投薬カレンダーなどで飲みやすいように薬をセットする

本人の不満にならないように話し合いながら自分でできる方法で管理することで自信が持てるようになる

定期的な訪問により内服状況を確認する

サービス事業者や支援者へも服薬の重要性と内服状況の情報共有しながら、服薬を促していく。

⇒薬剤師へ服薬管理を依頼する。訪問看護による健康管理療養指導

・主治医との連携

主治医から病状や治療内容の情報収集しつつ、服薬や生活状況の詳細を報告し、適切な治療、処方へ繋げる

本人へ服薬の必要性の継続的な説明と促し。時には励ましも依頼
定期的な受診を行う。できれば長男が同行し一緒に説明を聞く

演習

グループワーク 15分

上原さんが「望む生活」を送るために、
生活習慣の見直しが必要と思われます。

【演習15－⑤－5 P356】

「好きな物を食べたい」と考える上原さんに
どのように食事制限を行っていきますか？

意見交換しましょう。

【目標】塩分や水分を制限しながら
美味しく食事ができる

- 関わるみんなで
- まったく食べないのはストレス、量を調整
- 減塩製品、だし、ケアマネとヘルパー調理
- 汁椀、水分量の目安を具体的に
- 調理指導、栄養士の指導
- 統一した支援、少しずつ薄味に
- 現在の把握、実際の食生活
- 心を開ける人からのかわり、同席してもらっての指導
- 病気への理解

食事制限の工夫の一例

【目標】塩分や水分を制限しながら美味しく食事ができる

- ・本人の不満にならないように話し合いながら、塩分・水分の制限が必要なことを伝えていく。
- ・今の生活を続けて行くと今後どのようなリスクがあるかを説明し、自分で生活を変えていくことができるように配慮する
- ・塩分を控えた食事の提供(配食、通所・訪問介護サービスなど)
- ・塩分を控えた食品の差し入れを長男にお願いする(できる範囲)
- ・買物を頼んでいる近所の人や友人に、塩分・水分に配慮する必要があることを伝えて(本人の許可を得てから)無理のない範囲でお願いする
- ・長男の時間のある時に散歩や買い物に一緒に行っていただき、活動の機会を作り食欲を促せるようにする
- ・通所系サービスを利用し、体調に合わせた運動の機会確保し定期的な活動により生活リズムを整える
- ・夫と再び自宅で生活することを意識しつつ支援する
- ・栄養士さんの食事・栄養指導。訪問看護による健康指導・療養指導

演習

本日午後の演習を通しての気づき

グループワーク(10分)

⇒ 発表 (5分)